



<http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>

下関市長の部屋 検索



5月下旬ごろ下関港に寄港予定の「グローリー・シー号」

## 下関港が元気です 活発化するクルーズ客船の寄港



んにちは。市長の中尾友昭です。最近、日本全国でクルーズ客船に注目が高まっていますが、下関港における平成27年の客船寄港回数は、過去最高の10隻を記録しました。特に昨年は、中国からのクルーズ客船「チャイニーズ・タイシヤン号」が3度寄港し、約2600人の方が本市を訪問されたことが大きな話題となりました。

アジアと海で結ばれた本市では、昨年から外国クルーズ客船の誘致に力を入れており、私自ら中国のクルーズ船会社や旅行会社を訪問し、歴史、文化、観光、食など本市が持つ魅力をPRしました。その結果、今年も昨年に引き続き「カレドニアン・スカイ号」と「チャイニーズ・タイシヤン号」が寄港するほか、5月下旬ごろには、中国のクルーズ客船「グローリー・シー号」が本市に初寄港する予定です。この「グローリー・シー号」は、今後も定期的に下関港に寄港する予定と聞いています。

日本の客船も7月18日の海の日に客船「にっぽん丸」があるかばくと、関門海峡花火大会の際にも「にっぽん丸」と「ばしふいっくびい

なす」の2隻が寄港する予定です。なお、あるかばくとには、8月5日〜9日に帆船「海王丸」が寄港する予定となっており、セイルドリルや一般公開など市民の皆さんに参加いただけるイベントを実施する予定です。

近年、大型化するクルーズ客船に対応するため、昨年度は7万ト級、11万ト級、13万ト級の客船を対象とした航行安全対策検討委員会を開催し、3月に安全対策を取りまとめました。これにより4月以降は、7万ト級、11万ト級のクルーズ客船の寄港が長州出島で可能になりました。7月には下関港初となる7万ト級の大型客船の寄港が予定されており、受け入れに向けた準備を進めています。

このようなことから、平成28年の下関港へのクルーズ客船の寄港回数は、昨年を上回る50回以上が見込まれているところです。

下関市では、今後もさまざまなクルーズ客船に対応するために、港の整備を進めるとともに、本市を訪れる外国人の皆さんに素晴らしい思い出を提供できるように、受け入れ体制の構築にも取り組んでまいります。

### しものせき ナビ vol.66

行って! 学んで! 博物館!

#### 毛利元就画像

長府毛利家蔵・下関市立歴史博物館寄託



△毛利元就画像(長府毛利家蔵・下関市立歴史博物館寄託)

今月からのコーナーで、市立歴史博物館(11月開館)の展示品を紹介いたします。第1回目は、西日本を代表する戦国大名毛利元就の画像です。

元就は、大内義長を長福寺(功山寺、長府川端)で自刃させて大内氏を滅ぼし、安芸国(広島県西部)の一勢力であった毛利氏を大きく飛躍させました。大内氏滅亡後、元就は九州北部をめぐって豊後国(大分県)の太田義興(宗麟)と争い、孫の輝元とともに長府に滞在して指揮を執ることもありました。

この画像は、毛利氏が太田氏と争っていた時期に、元就の長子隆元の子に描かれた画像です。元就の画像は数多くありますが、生きていたうちに描かれた画像は、この画像と山口市の豊栄神社所蔵のみです。2つの画像は、ほぼ同時期に同じ図柄の下絵を用いて制作された可能性があり、画像の下絵は元就本人の前にして描かれたと言われています。

画像に描かれた元就の表情からは、武将としての強い意志や知略に優れた様子をうかがうことができます。この画像には幾度となく修復された形跡があり、現在まで大切に守り伝えられてきたことがわかります。博物館で展示された際には、そのような修復の跡にもぜひ注目してください。



歴史博物館イメージ図 (11月開館)